

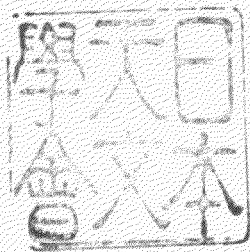
天文月報第二十二卷第十二號附錄 昭和四年十二月一日發行

自昭和四年一月
至昭和四年十二月

(西紀一九二九年)

天文月報

第二十二卷



日本天文學會

17
174

天文月報 第二十二卷 總目次

雜 錄

卷頭言

新年のことば

一號 三頁

論 說

恒星運動に於ける非對稱性に就いて(一)

理學士 楠木政岐 一 四

ミシシッピー號に於ける黃道光觀測

理學士 石井重雄 一 一一

舊方法による野外觀測の精度

理學士 辻光之助 二 二七

恒星運動に於ける非對稱性に就いて(二)

理學士 楠木政岐 二 三〇

萬國天文學協會に出席して

理學博士 平山信 三 四七

恒星運動に於ける非對稱性に就いて(三)

理學士 楠木政岐 三 五三

恒星進化論の現状(一)

理學士 松隈健彦 四 七一

銀河の中心

ハーロー・シャプリー 四 七八

恒星進化論の現状(二)

理學士 松隈健彦 五 九一

時間の長さの變動

理學士 秋山薫 五 九七

流星の軌道に就て(一)

理學士 神田茂 六 一一五

カルデア天文學に負へるギリシヤ天文學

フオザリンガム 六 一二一

垂直線偏差とアイソスタシー

理學士 宮地政司 七 一三五

流星の軌道に就て(二)

理學士 神田茂 七 一四一

太陽の自轉

理學士 矢崎信一 八 一五九

日食觀測より歸りて

理學士 連沼左千男 八 一六二

地軸の運動

理學士 中野三郎 九 一七九

週について

理學博士 平山清次 十 二〇三

近年に於ける月の運動

理學士 石井重雄 十 二〇五

大氣中のオゾン

理學士 谷本誠 十一 二二三

恒星の寫眞光度測定法一斑(一)

理學士 國富正勝 十一 二二八

恒星の寫眞光度測定法一斑(二)

理學士 國富正勝 十二 二四七

錦繪に現れたる惑星の會合(辻)

第四十一回定會記事 一 一四

ハーワード便り

理學士 萩原雄祐 三 五七

一九二九年五月九日の皆既日食

第四十二回定會記事 四 八二

昭和三年(第二十二年度)事務報告

會計報告 六 一二七

第四次回太平洋學術會議

理學博士 小倉伸吉 九 一八八

明治十五年の大彗星の錦繪(神田)

ケフェウス變光星の共同觀測に就いて 九 一九〇

太陽黑點の活動と星の變光とに就いて 十二 二一一

惑星の掩蔽に際してその大氣の影響

ロッセランド 十二 二五三

第四十三回定會記事 十二 二五六

變光星の觀測 十二 二五九

太陽黑點概況 一號 一九

觀 測 欄

變光星の觀測

一號 一六 三號 五九 五號 一〇二

七 一四八 九 一九一 十一 二二三

一九二八年十月 一號 一九

十一月
十二月
一九二九年一月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月

雜報

一九二八年十一月二十七日日月食
及び月食中の掩蔽觀測報告(蓮沼)
一九二八年十一月二十七日日月食中
の大流星(神田)
太陽の紅焰
月による恒星掩蔽觀測をすゝむ
(蓮沼)
一九二八年變光星の極大、極小の
觀測
流星の觀測
小惑星ヴェスタの光度觀測
一九二九年一月十八日の大流星
(神田)
流星の觀測
アルゴル種變光星の觀測
太陽のウォルフ黒點數

二	四一	太陽のウォルフ黒點數	十二	二六〇	問題	三	六五
三	六二	太陽の紅焰	十二	二六一	東京天文臺發見の小惑星	三	六五
四	八四				會員の計	三	六六
五	一〇七				ハーヴァード便り	三	六六
六	一二九	新彗星フォルプス	一	二〇	彗星だより	四	八四
七	一五一	高次の長年擲動の理論	一	二〇	シュワスマン・ワハマン彗星	四	八五
八	一六八	ポビユラー・アストロノミー誌より	一	二〇	建設中の大ドーム	四	八五
九	一九六	シリウスの伴星に就いての新研究	一	二〇	山崎正光氏の名譽	四	八五
十	二一四	ペテルギウスとアンタレス	一	二〇	新變光星の命名	四	八六
十一	二三六	太陽紅焰の瓦斯の運動	一	二一	パリに於けるアンリ・ポアンカレ	四	八六
十二	二六一	天文學談話會記事	一	二一	研究所	四	八六
二	三七	昭和四年各種曆の對照表に就いて	一	二三	天文學談話會記事	五	一〇七
二	三九	昭和四年各種曆の對照表	一	四一	シリウスの伴星は二重星か	五	一〇八
三	六三	フォルプス彗星	二	四一	太陽附近に於ける銀河系の力學	五	一〇八
三	六三	彗星だより	二	四二	山崎フォルプス彗星	五	一〇九
三	六三	注意すべきK型矮星	二	四二	關口鯉吉氏著「太陽氣象學」	五	一一〇
三	六三	恒星に降る流星の證跡	二	四二	日食觀測行(一)	六	一一〇
三	六三	二百吋反射望遠鏡製作の壯舉	二	四二	夜の空の明るさ	六	一一〇
三	六三	平山信博士の歸朝	二	四三	グリニチ天文臺に於ける太陽及び	六	一一〇
五	一〇〇	新彗星發見	二	四三	四外惑星の位置の研究	六	一一〇
五	一〇五	オブザヴァトリ誌より	二	四三	日食觀測行(二)	六	一一〇
七	一五一	長週期變光星の新研究	三	六三	龍骨座エータ星雲の距離	七	一一一
七	一五一	疑問の現象	三	六三	日本群島と大陸の聯絡	七	一一一
八	一六六	シュワスマン・ワハマン彗星	三	六四	シュワルツシルドの楕圓體理論に	七	一一一
八	一六七	フォルプス彗星	三	六四	就いて	七	一一一
九	一九三	一月十八日の大流星	三	六四	惑星出入一覽圖	七	一一三
九	一九三	銀河系の回轉とそれに關聯した諸	三	六五	新小惑星の軌道要素	七	一一三

項目	頁	項目	頁	項目	頁
役員異動	七一五	ケフェウス變光星週期の上限	十二二四	空間曲率と高速度小星雲	十一二四〇
日食觀測行(三)	七一五	太陽系運動速度について	十二二四	時空間の曲率半徑の新決定	十一二四〇
緯度變化と月の位置	八一六	アンドロメダ大星雲	十二二五	フォルブス彗星	十一二四一
紅焰のH線K線から得た太陽自轉速度	八一六	山本博士の三澤氏黑點度に關する論文とウオルファー博士の反駁	十二二五	ニュージュミン彗星	十一二四一
固有運動より求められたる銀河回轉	八一六	土星の未知衛星U星	十二二六	連星の質量と絶對光度	十一二四一
ウオルフ太陽黑點數及びその他	八一七	アンリ・アンドアイエ教授の死去	十二二六	ウイリソン山百吋鏡の鍍銀	十一二四一
濛氣差の攪亂に就いて	八一七	變光の疑ある星の表	十二二七	ジャバレンバング天文臺	十一二四二
太陽黑點内部の溫度	八一七	建設中の塔望遠鏡	十二二七	寫真知識展覽會	十一二四二
コロナの光度分布に就いて	八一七	彗星だより	十二二七	正誤表	十一二四二
彗星の宇宙論的意義	八一七	新刊星表	十二二八	長週期變光星一九三〇年の推算極大表	十一二四三
天文學談話會記事	八一七	オブザヴァトリ誌より	十二二八	カルシウム静止線と恒星の距離及び絶對光度との關係	十二二六二
新著紹介	八一七	天文學談話會記事	十二二八	惑星出入一覽圖	十二二六二
日食觀測行(四)	八一七	新著紹介	十二二九	恒星の視線速度決定に於ける平分誤差	十二二六三
赤道面に於ける主慣性能率に及ぼす大洋大陸の影響	九一九	正誤表	十二二九	無線報時修正値	十二二六三
東京浦鹽斯德間の經度差に就いて	九一九	カルシウム静止線の強さと恒星の距離との關係	十二二九	編輯だより	十二二六三
小惑星東京第十六番	九一九	地球自轉速度の變動とマグネット	十二二九	無線報時修正値	十二二六三
北海道の大流星	九一九	ストリンションとの關係	十二三〇	無線報時修正値	十二二六三
ラヂオ傳播の流星群による攪亂の可能	九一九	望遠鏡的ビーラ流星群	十二三〇	編	十二二六三
新彗星二個	九一九	太陽スペクトル線の波長の新測定	十二三〇	一	十二二六三
一九二九年五月九日皆既日食の無線電信に及ぼせし影響	九一九	星と星雲とのスペクトルを共有してゐる面白い星	十二三〇	二	十二二六三
天文學教室談話會記事	九一九	夜の空の光とオーロラとの關係	十二三〇	四	十二二六三
新著紹介	九一九	星の掩蔽觀測	十二三〇	七	十二二六三
		砲兵射撃に於ける測地的準備	十二三〇	十一	十二二六三
		一週五日制ロシヤで公布	十二三〇	十一	十二二六三

天象豫告

天圖

天文月報 (第二十二卷總目次)

一	號	頁	一	號	頁	一	號	頁
四	六九	五	八	八九	六	一	一三	四
七	一三三	八	一	五七	九	一	七	三
十二	〇一	十一	二	二一	十二	二	四五	五

各月の惑星圖

各月の天及び惑星

一	號	頁	一	號	頁	一	號	頁
四	七〇	五	九	九〇	六	一	一四	六
七	一三四	八	一	五八	九	一	七八	八
十二	〇二	十一	二	二二	十二	二	四六	六

各月の主なる天象

變光星

東京(三鷹)で見える星の掩蔽

流星群

望遠鏡の架

一	號	頁	一	號	頁	一	號	頁
四	八八	五	一	二二	六	一	三三	六
七	一五六	八	一	七六	九	二	〇〇	〇
十二	二二〇	十一	二	四四	十二	二	六四	四